2018 年 3 月 15 日（木） メディカルはこだて第 65 号 掲載

『「自閉症スペクトラムの性の勉強」が出版』 川渕 ゆかり 副看護部長

どんな人も幸せな「性」を知る必要があるはず

自閉症スペクトラム症の子どもを対象とした性教育のための

「おとなになるあなたたちへ 自閉症スペクトラムの性の勉強」が出版

函館中央病院副看護部長
川渕ゆかり

対人関係が苦手で、強いこだわりといった特徴をもつ発達障害の一つが自閉症スペクトラム症だ。自閉症スペクトラム症の子どもたちは、対人関係の維持やコミュニケーション手段の理解・使用などの面で特徴をもっていることから、社会の慣習や常識にあわせて生活することに適応しにくいなど、さまざまな生活上の困難を抱えている。このような自閉症スペクトラム症の子どもを対象とした性教育のための冊子「おとなになるあなたたちへ 自閉症スペクトラムの性の勉強」が昨年2月、ASDヴィレッジ出版から発刊された。関係者からは新たな教材の誕生を高く評価されている。

強い憤りを感じた二つの出産例

執筆者の一人が函館中央病院副看護部長で助産師の川渕ゆかりさんだ。助産師という職業柄、日頃から妊娠や出産・性行為に関わる機会が多いが、自分自身が子育てする立場になってからは、子どもたちに「性」について語ることのできる機会があればと思うようになった。「その頃、『思春期の性と薬物を考える会』が設立されると聞いてすぐに参加。見よう見まねで始めた性教育でしたが、授業を重ねることで私自身が性教育を学んでいきました」。

医療の現場では「聴力や視力などに障害を持つ女性が、妊娠・出産するのは以前からありましたが、『発達障害と言われている』『特別支援学級だった』ということを、妊婦やその家族から告げられ出産するようになったのはつい最近のこと」と教えてくれる。

医療者として、強い憤りを感じたことがあった。それは病院に救急車ですぐにでも分娩しそうな妊婦が搬送されたときのこと。「知的障害の30代の女性で、出産はこれで二度目でした。家族の支援は希薄で、彼女自身子育てをするだけの生活力がありません。その彼女がなぜ二度も出産するのでしょうか。それは彼女が性の被害者だったからです」。女性は男性との性行為が妊娠と出産に結びつくことを理解していなかった。もう一つは知的障害の20代の女性。旅行中に出会った男性に一目惚れし、結婚まで至ったが、特に問題のなさそうな事例だった。「ごく普通の結婚・妊娠・子育てという生活を送るはずでしたが、夫が職業上不在がちだった家庭事情からか、携帯電話の出会い系サイトで複数の男性と性的関係を持ち、子育てなど家庭での役割を放棄します。複数の男性との性行為が自分自身の健康を脅かす非常に危険な行為であることを理解していませんでした」。川渕さんは「彼女が不幸だったのは、彼女の持っている障害に対して、親や夫の理解がなく、適切な支援が得られなかったことにある」と感じた。「とても残念なことでした」。

「子育てをするだけの生活力のない彼女がなぜ二度も出産するのでしょうか。それは彼女が性の被害者だったからです」

この子を性の被害者にも加害者にもしたくない 幸せな大人になってほしい

憤りを感じる事例に直面していた頃、中学校の養護教諭から特別支援学級に通う自閉症スペクトラム症の生徒2人への性教育の相談を持ちかけられた。引き受けるかどうか少し迷ったが、「もともと楽天的な性格なので『教えてもらう』というスタンスでかかわることにしました」。手探り状態の中で教材を作り、授業を行った。生徒の母親と面会したが、その際に親としての不安を聞き、心を打たれた。「この子を性の被害者にも加害者にもしたくない。幸せな大人になってほしいのです。知らないことで、性の事件に巻き込まれることはとても恐ろしかった」と母親は訴えた。

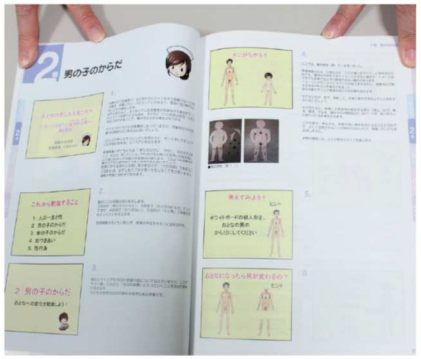
「迷いながらも性の授業を終えた頃、北海道発達障害者支援センターあおいそらの相談員で小児科医である高橋実花さんから函館・性と薬物を考える会へ、性の学習も担当している臨床発達心理士の服巻智子さんが教材を目にしたことによるものだ。「服巻先生は、全国には同じように悩んでいる関係者がたくさんいるから是非出版するようにと、私たちの背中を押してくださいました。私たちと同じ悩みを抱える多くの皆様の日々の支援に、この教材が少しでも役に立ってくれれば、大変うれしく思います」。

詳細に解説している。

「自閉症スペクトラム症には抽象的な言葉や『それ』などの代名詞を理解することが難しいという特徴があります。対象となった二人の男の子は知能の遅れはなく、難しいことも理解しようとしますので、専門用語も取り入れた内容にしました」。授業の最後にはクイズ形式のテストも実施。4回の授業以外に、それぞれの子どもに合わせて、適宜個別指導の時間も設けられた。

「二人の授業への関心は非常に高く、毎回40分ほどの授業のほとんど集中を途切れることなく受けることができました」。スライド教材は二人の興味を引いた。「4回の学習が彼らにどこまで届いたのか。これからが楽しみです」と川渕さんは期待する。「彼らが理解できるように曖昧な表現を避け丁寧に作成した資料は、自閉症スペクトラム症ではない人たちにも十分に理解しやすいものになったのではないかと実感しています」。

4回のスライドが出版されたのは、自閉症スペクトラム症および発達障害の専門家で社会福祉法人侑愛会の自閉症支援コンサルタントも担当している臨床発達心理士の服巻智子さんが教材を目にしたことによるものだ。「服巻先生は、全国には同じように悩んでいる関係者がたくさんいるから是非出版するようにと、私たちの背中を押してくださいました。私たちと同じ悩みを抱える多くの皆様の日々の支援に、この教材が少しでも役に立ってくれれば、大変うれしく思います」。



「おとなになるあなたたちへ　自閉症スペクトラムの性の勉強」

監修／服巻智子
函館・性と薬物を考える会　発達障がい部会
北海道発達障害者支援センターあおいそら
ＡＳＤヴィレッジ出版　2017年2月22日発行

付属のCDに収録されているパワーポイントのデータは教材として使用できる

「性教育」授業の教材が本として出版される

教材を作成したのは、あおいそらの高橋さんと岩田さん。函館・性と薬物を考える会発達障がい部会の川渕さん、小児科医の故・阿部修司さん（函館五稜郭病院）、おしま地域療育センター看護師の竹田奈津子さん、助産師の勇谷真樹さん。6人は平成22年から半年間、毎月3回ほど仕事の終わった夜に集まって勉強会を続けた。

「おとなの男になる君たちへ～知っておきたい医学的知識～」と題した教材は4回分が作られた。1回目の「男の子のからだ」と2回目の「女の子のからだ」は川渕さん、3回目の「おつきあい」を阿部さん、4回目の「性行為」を勇谷さんがそれぞれスライドを作成し、それに基づいて授業が行われた。「男の子のからだ」では男性器や精巣などを説明。知っておきたい大切なおとなのマナーとして、マスターベーションについては「しかた」に関することなどを

川渕さんは「どんな人も幸せな性を知る必要があるはずです。性の学習は自分自身を大切にすること、自分と自分以外の人を思いやる心を育てること」だと考えている。「女性も男性も欲しいと思ったときに赤ちゃんが授かってほしいと思っています。少しずつですが、誰もが幸せな明日を過ごせるように努めていきます」。